

保護者の皆様

令和 8 年 1 0 月 7 日

川崎市立南菅小学校
校長 中川 正彦

令和 8 年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月9日（木）～14日（火）に行いました4～6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月23日（木）に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、本資料につきましても、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校報告会や説明会等でもお伝えします。

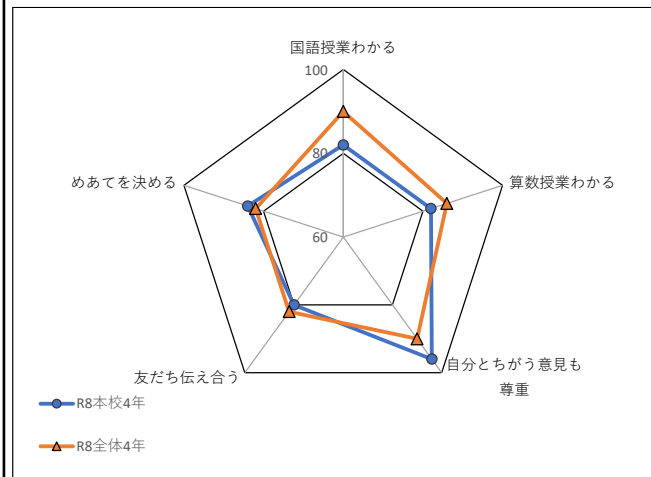
学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）

心身ともにすこやかで、思いやりがあり、調和のとれた児童の育成
～ 心が通い合う子供たちをめざして ～

- ① 主体的に学びよく考える子
- ② 自他を大切にし、認め合い協力する子
- ③ 心身ともに健康でたくましい子
- ④ 未来を創造し豊かに生きる子

令和 8 年度 川崎市学習状況調査 4 年生

○意識調査のアンケート結果より



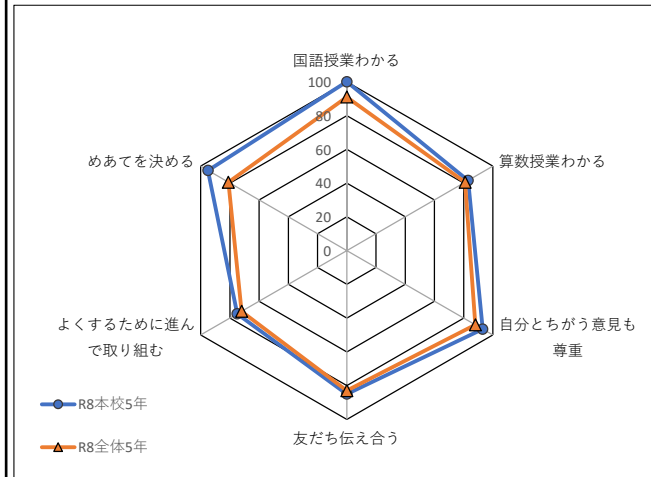
○教科調査の正答率

	国語書くこと	算数 思考・判断・表現
R8本校4年	57	57
R8全体4年	49	57

- ・国語、算数のいずれも、「授業がわかる」が、全体の水準を下回りましたが、正答率では、「国語 書くこと」、「算数 思考・判断・表現」のいずれも、全体の水準を上回りました。学力的には身につけていないながらも、実感を持った理解に結びついていないことが課題となっています。国語では、朝のモジュールで「書く」「話す」「聞く」のトレーニングを行ったり、関連図書を廊下に置き、並行読書に取り組んだりしながら、国語力の向上を図っています。算数では、1日1問の計算道場の継続など、計算力や問題文そのものの意味を読み取る読解力の向上に取り組めます。日々の小さな積み重ねを大切に、児童の自己肯定感を高め、次年度は「授業がわかる」で、全体の水準と同等以上となることを目指します。
- ・「その日のめあてを決めて学習に取り組む」は84ポイントで、昨年度（69ポイント）を大きく上回りました。めあてを意識した授業改善を行ってきた成果が現れています。一方で、「わかった点、わからなかった点を見直し、次の学習につなげている」は64ポイントで、「その日のめあてを決めて学習に取り組む」と比べて20ポイント下回っています。めあてを達成したかどうかを、各自が振り返り、次の学習へとつなげていくことで、学習事項が点から線へとつながっていくよう、授業改善を行っていきます。

令和 8 年度 川崎市学習状況調査 5 年生

○意識調査のアンケート結果より



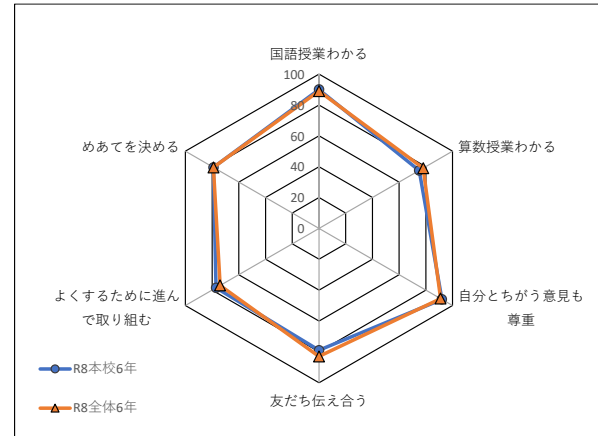
○教科調査の正答率

	国語書くこと	算数 思考・判断・表現
R8本校5年	29	49
R8全体5年	35	46

- ・国語では、「書くこと」の正答率が全体の水準を下回りましたが、「授業がわかる」は100ポイントでした。4年時より、「何が分かったのか」を意識化させる指導を積み重ねてきた成果が現れています。一方で、文章の読み取りや、考えや思いを表現することに課題があります。自分の考えを伝え合う時間を意図的に設定し、次年度は「書くこと」の正答率が全体の水準を上回ることを目指します。
- ・算数では、「授業がわかる」は83ポイントで、4年時の調査から10ポイント下回りました。学習内容が難しくなるため、昨年度も同様の傾向が見られましたが、既習の学習内容を復習したり確認したりしながら、丁寧な指導を行っていきます。
- ・「自分と違う意見も尊重する」、「友だちのよいところやがんばりを認めて伝え合っている」はそれぞれ93ポイント、85ポイントで、全体の水準を上回りました。ペアやグループでの活動など、学習や学級活動で取り組んできた成果が現れています。高学年として、委員会やクラブ活動、学校行事等、様々な場面で自ら考え、行動に移す経験を通して互いに認め合い、高め合う機会をより充実させ、次年度もこの水準を保つことを目指します。

令和 8 年度 川崎市学習状況調査 6 年生

○意識調査のアンケート結果より



○教科調査の正答率

	国語書くこと	算数 思考・判断・表現
R8本校6年	51	45
R8全体6年	47	45

- ・川崎市調査では、「授業がわかる」が、国語は90ポイントでしたが、算数は75ポイントで、算数に苦手意識がある児童が多い傾向があります。正答率では、「国語 書くこと」、「算数 思考・判断・表現」のいずれも、全体の水準を上回ってはいますが、決して高い正答率ではありません。漢字の意味の理解や、小数の計算や桁が増える計算などに課題が見られます。反復練習や既習事項の確認を行う場面を充実させ、中学校進学に向けて、苦手意識の改善や、家庭でも繰り返し取り組む自主学習習慣の定着を目指します。
- ・全国調査では、「自分にはよいところがある」、「地域社会をよくするためにすべきことを考える」が、それぞれ92ポイント、85ポイントで、全体を上回りました。子供たちの自己肯定感や地域を思う意識が高いことは、これまで総合的な学習の時間などを通して、地域の事業所に出向いたり、里山体験や田植え体験など、地域の中で体験学習に取り組んだりしてきた成果であり、地域の皆様や保護者の皆様の支えによるものです。今後も地域の皆様や保護者の皆様の協力を得ながら、この水準を保つことができるよう取り組みます。

全国学力・学習状況調査 6 年生

